

麦ふみ

麦は

やつと芽を出した時

踏みつけられる

踏まなければ

育たない

もつと踏んで下さい

強く

生きられるように

やなせたかし

教育を麦ふみに例えたら、きつと怒鳴りつけられるだろう。

「うちの子は麦ですか。うちの子を踏みつけるのですか」と。

しかし、今の子供も「もつと踏んで下さい。強く生きられるように」と、声をあげているのではないだろうか。何度も叱りつけて、何度も学校に引きずってきた生徒が、

「おかげで、卒業出来ました」と頭を下げて卒業して行った。叱る事のむずかしさをいつも感じて 三月が終る。

平成十九年三月二十八日

国府はがき通信

No39

私が九大工学部を受験しようと決めたのは、二年生の夏でした。まだ、その頃は九大に合格できるような成績ではなく、模擬試験ではD判定でした。成績は伸び悩み、苦しい事も、辛い事もありません。だが、共に頑張る仲間がいたために、お互いに切磋琢磨しながら充実した毎日を送る事が出来ました。九大という大きな目標を立てて、その達成のために、小さな具体的な目標を一つずつクリアしていく。例えば英単語百個を一週間で覚えるなど、モチベーションを落とさない様にしました。しかし、何と云っても国府高校の先生方にお世話になった事が合格できた最大の理由です。一年生の時から英語、数学、二年生の時から国語の添削指導をしていただきました。本校の先生方は受験のプロです。本校の先生方を活用する事が合格の一番の近道です。（卒業生に聴く会）から

九州大学工学部物質科学工学科、現役合格 荒川真吾（桜木中出身）

平成十九年 三月二十三日

国府はがき通信

日本の心

「いきいきと細目かがやく雛かな」

本校の正面玄関を上がると、七段飾りの内裏雛が飾られています。平成二年、その当時の校長先生、木下俊文先生が御寄贈なされたものです。今では男子生徒も立ち止まって眺めています。日本には古来、心ゆかしい行事が多くありました。雛祭りもその一つです。かつては、それぞれの家でお祝いをしていたのですが、今では少なくなっています。中にはお雛様を見た事がない生徒もいます。日本にはこんなゆかしい行事があるのだ、と私どもはいつも語りかけます。五月になると大きな鯉のぼりが国府高校の空に泳ぎます。失われていくものの中に、私どもは大切にしなければならぬものも多くあるような気がします。三月の雛祭り、五月の鯉のぼり、七月の大賀ハスを愛でる会。私どもは日本の心を伝えたいと思っています。

平成十九年 三月十六日

国府はがき通信

No37

九大工 合格

「合格しました。荒川君が九大工学部に合格しました。第一報が届く。もう先生方の顔はくしゃくしゃになって、声にならない。黙って握手する。「国府高校の素晴らしいところは、優秀な先生がおられる事。そして伸び伸びと勉強できる事です。」こんな泣かせる言葉を残して卒業した彼等です。入学した時からの苦労が報われました。「生徒には皆んなそれぞれ能力がある。ダイヤモンドの原石だ。これを磨こう。」それを合言葉にさまざまな指導を続けてきました。ぐんぐん伸びていく生徒を教える事はどんな苦労も吹っ飛びます。まして、「優秀な先生方」と生徒から言われたのです。ただ嬉しいのです。県立の学校に行かずに国府高校に入学した生徒が九大に現役合格した。私どもの指導に間違いはなかった。この喜びを胸に、この自信を胸に私どもはまた新しい一年生からダイヤモンドの原石を磨く仕事に取り掛かります。

平成十九年 三月 九日

国府はがき通信

No36

私の大好きな場所

扉を開くと新刊が目飛び込んできます。ある本は本立てに並んで、ある本は机に置かれていて、表紙が「早く私を読んで下さい」と呼びかけている様です。奥の机には大学受験を間近にした三年生が必死に勉強しています。ここは本校の図書館、整理された本棚の中に静謐な時間が流れます。卒業する三年生が「私の大好きな場所」と言ってくれるはずです。今の時代、インターネットが発達し、何でも一人で出来てしまいます。あらゆるものが実に簡単にアクセスできて、圧倒的に便利でず。しかし、ゆったりと書物のインクの香りの中で、深い思いをする事は非常に大切な事だと思えます。図書館はどんな時代になっても、本と話が出来る場所であって欲しいのです。卒業する三年生が「この図書館が好きだった」と巣立って行く事に一抹の淋しさとか何かを残してやれたという充実した思いに駆られるのです。三月一日⁴⁶⁷名の生徒が卒業しました。

平成十九年 三月 二日

国府はがき通信

新たな決意

降り込める雨に傘を傾けて、ノートを取っている子供、粗末な教室、粗末な黒板、その中で目を上げて、一言も聞き漏らすまいとしている子供、子供、子供・・・「インドの衝撃」というテレビの一面です。本当に「衝撃」を受けました。この子供達が育っていく十一億人のインド。あと三十年たつたらどんな国に発展しているのでしょうか。その頃の日本はどうなっているのでしょうか。中国は？ロシアは？アメリカは？世界は？・・・本校の入試が終わりました。お蔭様で、⁸⁶⁴人の生徒さんに合格通知を出す事が出来ました。「衝撃」を受けてばかりではおられません。本校を選んでくれた生徒諸君に充実した学園生活を送らせたい。「国府高校に来たから大学に合格出来た。良い就職が出来た」。そんな思いをさせたい。台頭する世界の人々の中で決して引けを取らない若者を育てたい。私共は合格者の名前を前にして、新たな決意をするのです。

平成十九年 二月二十三日

国府はがき通信

No34

朝日と夕日

国府高校の日照時間は長い。朝は燦然と太陽が昇る。夕方は真つ赤に燃える夕日が沈む。熊本市の中心部にありながら、校舎はいつも太陽の光を受けている。朝六時頃には部活動の生徒が走っている。朝の時間の不思議さは、しばらく物質世界との関係が絶えるという事だ。何か自由な、自然な伸び伸びした気持ちになる。夕方の時間の不思議さは、何かふるさとに帰る思いにかられる事だ。視聴覚室から見る夕日にしばし、時を忘れる。なぜか郷愁の思いにかられる。紅に沈む夕日を眺めていた生徒が「心の真中が熱くなる」とつぶやく。朝日を見ながら、「さあー、今日は何をやらせようか」と実り多い一日を誓い、夕日に熱くなりながら「今日、一日の収穫は何だっただろうか、何を刈り入れただろうか」と反省する。そんな事が出来る国府高校である。

平成十九年 二月十六日

国府はがき通信

No33

私達が嬉しい時

制服をぴしつと着こなして、さわやかな生徒達が職員室に入って来ます。第52回西海駅伝競走大会に優勝した生徒達です。二年連続、三回目の優勝です。四区では蓮池龍顕君(二年小川中出身)が区間賞を取りました。生徒代表の報告が終ると、大きな拍手が起こります。優勝した事も嬉しいのですが、この生徒達の日頃の生活にみんな拍手しているのです。挨拶から始まって、掃除、そして勉学、全てに渡って素晴らしい生徒達です。それぞれの部が特色を持ち、それに魅力を感じる中学生が集まる。そんな学校にしなければならない。入学した生徒がどんどん伸びる学校でなければならぬ。私どもは常にそう思っています。しかし私どもは時として悩み、立ち止まり、自分の力のなさを感じる事があります。だから、センター試験で、九大、阪大、東北大にA判定の生徒が出た時、飛び上がるほど嬉しいのです。こうして素晴らしい生徒を見る時、思わず大きな拍手を送るのです。

平成十九年 二月九日

国府はがき通信

No32

温かい保健室

しゅんしゅんとお湯が沸いています。ストーブに手をかざしながら「ここは心が安まるなあー」と生徒がつぶやきます。ここは本校の保健室です。いつも笑顔の先生が一人おられます。生徒が大好き、学校が大好きな先生です。保健室に暖房設備がないわけではありません。あえて、昔ながらのストーブを使っているのです。ストーブなら顔を合わせながら話ができるからです。近くで生徒の悩みを聞く事が出来るからです。しかもお湯は湯たんぽに使うことができます。生徒は湯たんぽが大好きです。今の時代、すべての物が近代化され、便利になりましたが、昔の物にも良い物があります。このストーブや湯たんぽには人の心が通う温かさがあります。本校の保健室は、この温かさを大切にしています。

平成十九年 一月二日

国府はがき通信

No31

センター試験に七十二名

一月二十、二十一日、センター試験が終わりました。本校の受験者は七十二名。これだけの人数がいますと、試験会場でも一角を占める事ができます。昼休みには校長先生を始め、多くの先生方が駆けつけました。そのおかげで、生徒諸君は日頃の実力が充分に発揮できました。本校の最高点数は七百九十八点、九大の工学部にAランクです。後に何人も続いています。「国府高校に来たから、自由に伸び伸び出来て、力もついた。」と、生徒は言ってくれます。しかし、本番は今からです。今から勝負の日々です。基本テスト、実力テストのやり直しなど、今までの基礎をもう一度、かためる事に集中させたいと考えています。国府高校から東大にも合格者を出したい。それが、私どもの目標です。

平成十九年 一月二十六日

国府はがき通信

No30

近くの火事から学んだこと

正月気分がまだ抜けきれない一月六日、午後八時ごろ、国府高校南側の民家が全焼。アパートの一部に延焼し、二人の人がやけどを負われました。おひとりは重傷だとのこと。柱が二、三本、黒焦げになって、残っている焼け跡。水浸しになった家具を運び出している方々。その中に本校の生徒の家もありました。もし、あの時、強い風が吹いていたら、もっと大火事になっていたのではないかと、身の縮むような思いが致します。何もかも順調でうまくいっている時こそ、危機が迫っているものだと、つくづく感じています。その対応をいつも、しっかり考えておかねばならない。三学期の始めに、その事を強く感じた事でした。

平成十九年 一月十九日

国府はがき通信

No29

冬休みの職員室

冬休みに入りますと、卒業生が学校に遊びに来ます。中には小さなお子様を連れて来る人もいます。廊下を走り回る子供にお菓子をあげながら、「大きくなったら国府高校に来るのよ」と、もう勧誘している先生もいます。在学時代に問題児だった自分の事は棚に上げて、文句を言う卒業生もいます。「先生、もっとビシビシ叱らんとだめですよ。近頃は甘いのとちがいますか。」「お前の時も、ずいぶん辛抱したのだよ。あの頃、親は泣いていたよ。」「子供を連れて来る卒業生のために、お菓子をいっぱい用意している先生。立派に成長していく卒業生を楽しみに待っている先生。冬休みは、外は寒いけど、ぼかぼかとあたたかな職員室です。

平成十九年 一月十二日

国府はがき通信

No28

速報

熊本国府高校進路状況

(本物は横書きでした)

大学合格者続出！

国公立大学 5名 熊本県立大学(3)、福岡教育大学(2)
私立大学 81名 熊本学園大学(43)、法政大学(1)、久留米大学(3)、他大学(34)
センター試験受験者 73名
専門学校 76名

就職 好調！ 内定者 120名

九州労働金庫(1)、(株)伊藤園(1)、オムロン(1)、(株)熊本ホテルキャッスル(3)、
熊本赤十字病院(1)、(株)堀場エステック(2)、(株)ベスト電器(3)、山崎製パン(株)(1)、
(株)リョーユーパン(2)、富士フィルム九州(株)(1)、その他

平成十八年 十二月二十五日

国府はがき通信

本校の朝は早いのです。六時にはもう体育館では、早朝練習が始まっています。松葉杖を突いて見学している生徒に「寒いだろう。練習出来ないのに感心だね」と話しかけますと、につこり笑って「見学していても勉強になります」と立派な返事が返ってきました。先生方も早いのです。化粧台の前などに可愛い花を生けている先生もおられます。花を見ながら、ちよつとネクタイを直すのも実に気持ちが良いものです。教室で一所懸命勉強している生徒など、朝でなければ見えない姿が沢山あります。七時過ぎになりますと、ちよつと空は明るくなって課外が始まります。八時過ぎますと、学校全体は活気に満ち溢れ、慌ただしい一日の始まりです。そして夜の十時、ちよつと学校は眠りに入ります。こうして、日々を重ねて、今年も終わりに近づきました。この号が本年最後の号になりました。来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成十八年 十二月二十二日

国府はがき通信

No26

「ハンドでは負けられません」と先日行われた教職員ハンドボール大会に、本校は勇躍出場しました。なにしろ、ドー八で行われているアジア大会女子ハンドに二名の選手を送り込んでいる国府高校です。レベルは高いのです。しかし若手の特訓にもかかわらず二回戦で敗退。その敗因を考えると次の二点に絞られました。

あまりにも高度な作戦のため、選手の身体が付いて行けなかった事。全日本級の戦術を練習すること三日、選手は頭ではわかっていても、身体が動きませんでした。夜の部だけを練習していた人が多かった事。試合よりも、ひたすら夜の宴会のためトレーニングを積んでいた応援団が多かったのです。ですから宴会はさながら優勝祝賀会。大いに盛り上がりました。きつと心やさしい生徒達が一月七・八日に行われる高校ハンドボール決勝リーグで本物の優勝をしてくれるでしょう。

平成十八年 十二月十五日

国府はがき通信

No25

テレホンサービス

受話器を取って、〇九六 三六六 三〇〇〇を押しますと、軽やかな音楽が流れます。そして、「こちらは熊本国府高校テレホンサービス、第八九九号です。」とさわやかな生徒の声。行事、時間割等の変更、部活動報告、今後の行事予定と盛り沢山の内容です。今週で九〇〇号、千号の大台も近くなりました。継続は力なりと申しますが、実に十八年間にわたつての実績です。今までに北極遠征、修学旅行など、その時々活動を伝えてきました。たった三分間で学校の情報が届く、それを中心にして家庭で親子の対話ができる。テレホンサービスは生かされる情報です。ここには、生徒の生の声があります。学校の生きた姿があります。どうか今後もこの熊本国府高校の息づかいをお聞き下さい。

平成十八年 十二月八日

国府はがき通信

No24

国府高校はどんな高校ですか？

「先生、パソコンを使って良いですか」「ここは生徒の皆さんの為にあるのです。どんどん利用してください。」

進学指導室の放課後は大学進学を目指す生徒達で一杯になります。午後七時過ぎまで灯りがともっています。今は大学の資料もインターネットで収集することができます。しかし、何と言っても各大学から送られてくる入学案内が一番です。不足して、大学に電話をすると、実に丁寧で迅速な対応をしてくれる大学があります。一方では事務的で、熱意がまったく感じられない大学もあります。

そして思います。熊本国府高等学校は中学の先生方にどう思われているのだろうか。熱意が感じられる高校だろうか。生徒を一所懸命に育てようとしている高校に見えるだろうか。

平成十八年 十二月一日

国府はがき通信

No23

ある卒業生からの手紙

先生、お手紙ありがとうございました。近頃、新聞やテレビで国府高校という文字を見つけただけで、嬉しくなったり、応援していたりする自分がいま。これはきっと、高校時代には気付かなかった先生方からの愛情一杯のご指導があったからだと思います。先日、先生が「今一才の孫が高校に行く時に熊本県の高校入学の人数が三千二百近く減る」と、具体的に教えてくださいました。わが子も現在一才。親として、大人として今の日本に危機感を持ちました。世界に目を向けると恵まれた環境の中で暮らしている私たちは、真剣に生きる事の大切さを見失っていると思います。変わるべきは大人だと思いません。真剣に生きていない大人の背中を見て育った子供に、真剣に生きるとは言えません。まずは私自身、真剣に自分と向き合い、自分の人生を自分で決められる人間になります。上山京子（平成十年卒）

平成十八年 十一月二十四日

国府はがき通信

No22